

～平成28年度全国学力学習状況調査から その1～

全国の小学校6年生を対象に行われた全国学力学習状況調査の結果や分析された傾向については、既に報道等でもご存知の通りですが、過日帯広市の分析結果が発表され、新聞報道や市のホームページなどでも公表されました。これを受け、本校の結果や傾向についてお知らせします。まず、調査が行われた国語と算数の傾向と今後の対策についてです。

<改善にあたっての一考察>

- 児童質問紙では、国語・算数とも教科の学習が好きな子どもが増えていることをふまえ、より一層の子どもの学力向上を目指した、質の高い授業づくりを進めていきます。

<国語>

- ◆ より語彙を増やすために、他教科領域でも、国語辞典等を利用するなど自ら調べることを意図した学習を進めます。
- ◆ ローマ字の確実な習得に向け、コンピューターを使った学習と関連づけるなど、繰り返し読んだり書いたりする日常的な機会を意図的に計画します。
- ◆ 字数や時間の制限をしながら、自分の意見や学習のまとめなどの文章を書けるような指導を進めます。
- ◆ インタビュー等聞き取りの活動では、質問の答えを予想したり、相手の答えに応じて適切に質問をしたりできるような「話すこと」の実践的な指導を進めます。
- ◆ 「書くこと」についても、六年間の発達段階をふまえ、他教科・領域の中に位置づけながら「言語活動」を充実していきます。

<算数>

- ◆ 自らの計算の結果を検証するために、計算の見積りや確かめの習慣をつけるような授業づくりを進めます。また、日常的問題・課題のイメージ化を図る授業づくりの工夫と、校内研究（算数）とのつながりを一層深めていきます。
- ◆ もとになる量（基準量）とくらべられる量（比較量）、による割合の関係を正しくとらえることができるように、日常生活における割合の考えが用いられている場面（値引きや増量など）を意図的に取り上げ、定着問題や練習問題等の繰り返し学習を徹底するなど、授業づくりの工夫を進めます。
- ◆ 一斉授業でとりあげられる友達の考えについて、論理的に思考し、イメージ化しながら考え方を吟味するなど、自ら考える授業づくりを進めます。
- ◆ 複数の資料を比較する授業を意図的に取り入れ、根拠を明らかにして説明できる力を育成していきます。

<全体的な傾向>

- ※ 国語A・算数A問題：基礎・基本の定着を調べる問題
- ※ 国語B・算数B問題：知識技能を活用する応用問題

- 過去数年、全道平均程度が続いてきた結果から、今年度はおおむね全国平均を上回る結果となりました。宿題や家庭学習の取組やT T等を活用した授業改善など組織的、継続的な取組に一定程度の成果が見られたものととらえられます。結果について細かな検証を進め、今後もより一層の成果を目指した取組を進めます。

<国語A>

- ☆ 正答率は全道、全国平均を上回る。
- 漢字の読み書きはおおむねできています。
- 目的に応じて、図と表とを関係付けて読むことができています。
- ローマ字を書く・読むことに課題が見られます。

<国語B>

- ☆ 正答率は全道、全国平均を上回る。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができています。
- 目的や条件に応じて、自分の考えを書くことができています。
- グラフ等を読み取り、分かったことを的確に書きあらわすことに課題が見られます。

<算数A>

- ☆ 正答率は全道、全国平均を上回る。
- 四則計算はおおむねできています。不等号の性質も理解しています。
- 1を超える割合を百分率で表す場面において、もとになる量とくらべられる量の関係を書き表すことに課題が見られます。

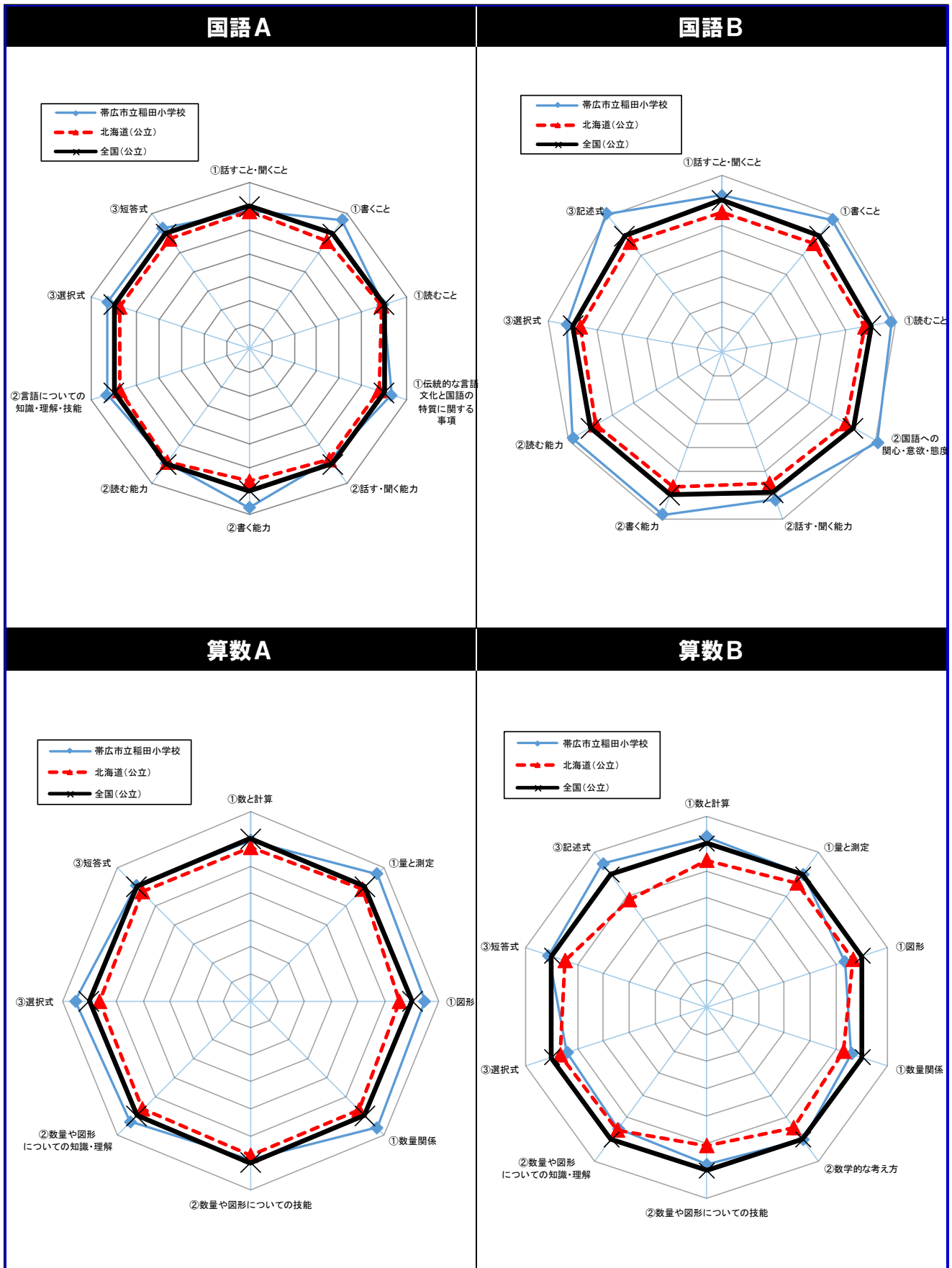
<算数B>

- ☆ 正答率は全道を上回り、全国平均と同程度。
- 示された条件が、他の図形にもあてはまるか、同じきまりが成り立ち条件を満たしているかを調べることができています。
- 示された数値やグラフをもとに、考え方を整理して記述したり、条件にあう答えを求めたりすることに課題がみられます。



～平成28年度全国学力学習状況調査から その2児童質問紙から～

全国学力学習状況調査には児童質問紙もあり、規範意識や生活習慣等についてたずねる項目があります。ここからは児童質問紙から見える本校の傾向と今後への対策、展望です（裏面）。下は、本調査の国語A、国語B、算数A、算数Bの、全道、全国、本校の調査結果をレーダーチャートでまとめたものです。本校ホームページ（カラー版）にも掲載されますので、こちらをご覧ください。



1、規範意識

			昨年度
(1) 自分にはよいところがあると思う。	稲田82.1	全国76.3	(稲田62.3)
(2) 人の役に立つ人間になりたいと思う。	稲田95.8	全国93.8	(稲田95.1)
(3) いじめはどんな理由でもいけない。	稲田97.5	全国96.6	(稲田93.6)

2、生活習慣

(1) 普段1日あたり1時間以上勉強する。	稲田59.0	全国62.5	(稲田42.7)
(2) 休みの日に1日あたり1時間以上勉強する。	稲田71.9	全国57.0	(稲田44.2)
(3) 家で自分で計画を立てて勉強している。	稲田72.7	全国62.2	(稲田56.6)
(4) 家で学校の授業の予習をしている。	稲田57.3	全国43.3	(稲田41.0)
(5) 家で学校の授業の復習をしている。	稲田71.0	全国55.2	(稲田55.0)
(6) 1日のテレビ等視聴時間(1時間未満)	稲田13.7	全国15.9	(稲田12.3)
(7) 1日のテレビ等視聴時間(1~2時間)	稲田26.5	全国26.9	(稲田23.8)
(8) 1日のテレビ等視聴時間(3時間以上)	稲田35.0	全国32.8	(稲田41.0)
(9) 1日のゲーム等の時間(1時間未満)	稲田35.9	全国45.1	(稲田38.6)
(10) 1日のゲーム等の時間(1~2時間)	稲田30.8	全国25.3	(稲田23.8)
(11) 1日のゲーム等の時間(3時間以上)	稲田17.9	全国16.0	(稲田18.8)

3、教科等

(1) 国語の勉強が好き	稲田56.4	全国58.3	(稲田46.7)
(2) 国語の授業の内容はよくわかりますが	稲田82.1	全国80.7	(稲田81.1)
(3) 読書がすき	稲田77.8	全国74.6	(稲田68.9)
(4) 算数の勉強が好き	稲田65.0	全国66.0	(稲田54.9)
(5) 算数の授業の内容はよくわかりますか	稲田81.2	全国80.2	(稲田79.5)
(6) 算数で問題に解き方や考え方が わかるようにノートに書いている	稲田82.1	全国81.0	(稲田81.9)

4、全体傾向と今後に向けて

<規範意識>

- いじめはどんな理由があっても許されない意識をもっている児童がより多くなっています。日常での指導や道徳、また個別面談等の取組やご家庭での日ごろからの声掛け等の成果です。自分のよさ、存在感を意識している子どもが多くなっていることにも注目です。引き続き子どもたちへの心の教育を大切にしていきます。

<生活習慣>

- 起床や就寝時間等、規則正しい生活をしている、また朝食の摂取率の回答がこれまで以上に増えています。全国比でも高く、日頃の家庭での配慮が結果にあらわれています。
- 家庭学習の習慣化、特に休日に一定時間の取組をする児童が増えています。また、復習を大切にしている児童の割合が過去5年で最高となっているなど、意識をもって取り組む児童が多く見られます。学力向上の基盤となるのが学習意欲と家庭学習です。学ぼうとする意欲を大切に、具体的な家庭学習の取組方法、個別的な指導、授業との関連性を大切にした取組が必要になります。
- 1日のテレビの視聴時間、ゲーム時間が減少傾向に見られます。特に3時間以上の長時間にわたるものの低下が顕著です。先日、11月18日に南ブロック小中学校合同で「ノーテレビデー」が行われました。家庭の団らん、限られた時間を家族ぐるみでバランスよく過ごすことは、子どもの成長に大切なことです。ここは家庭での取組に負うところが大きいです。

<教科等の学習>

- 学習が好きな子どもたちが増えています。授業での「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を日頃から体感させる授業づくりの大切さ、また、しっかりとした学習内容の定着とくり返しがよいサイクルを生む結果となっています。

毎年お知らせしていることですが、学力学習状況調査からみえることは、客観的にとらえた子どもの学力、生活の一面が数値となってあらわれる子どもの実態です。そしてこの結果は、子どものよりよい成長と今後の授業等の改善に向けた手がかりとするものです。結果に一喜一憂するのではなく、学校がわかる楽しい力の付く授業で学習意欲を高めながら、学習習慣を確かなものとし、家庭と連携した取組につなげることが必要です。子どもたち一人一人のよさを生かした授業改善を基盤とした学校改善の検証、そして子どもの将来への「自立」に向けた素地となるような取組を進めます。

今後も結果をふまえ、「子どもが将来就業し、『自立』して生きる」「周囲とのかかわりでしっかり生きていく『共生』していくことにつながる取組」を大切に、具体的な指導の手立てを図り、改善につとめていきます。